

# 真宗大分

第135号  
 創刊 昭和41年8月  
 発行 教 区  
 大 分 教 区  
 〒874-0920  
 別府市北浜3丁目6-36  
 本願寺別府別院内  
 TEL 0977-22-0146

## 「第5連区門徒推進員 実践運動研修会」について

大分教区門徒推進員代表 田川安一  
 大海組 眞光寺



「御同朋の社会をめざして  
 新たな始まり 伝えよう  
 お念仏のよろこびを」をテー  
 マに、去る6月24日・25日別  
 府湾ロイヤルホテルで「第5  
 連区門徒推進員実践運動研修  
 会」が開催されました。当初  
 の予定(160名)を上回る  
 176名のご参加をいただき、  
 門徒推進員の皆様の「熱き心・  
 熱き想い」を実感いたしました。

開会式に続き、北豊教区と  
 福岡教区から事例報告があり、  
 北豊教区では葬儀委員会の継  
 続的な活動で立派な「葬儀の  
 しおり」の冊子が作成され活  
 用されているのが印象的でし  
 た。竹田嘉円先生から講義と  
 次のような問題提起がありま  
 した。

- ・中央教修でご自分がされた  
 決意表明を思い出してくだ  
 さい。
- ・素直に今日までのご自分の  
 生き方や活動を振り返って  
 みてください。
- ・これらから、どんな生き方  
 や活動がしたいかを考えて

みてください。

・今一度、新たに2度目の決  
 意表明をしてみてください。

「話し合い法座」は16班に  
 分かれて大分教区の門徒推進  
 員を座長に問題提起について  
 活発な意見が飛び交いました。

「夕事勤行」の後には、楽  
 しみな「懇親会」が参加者の  
 情報交換の場となり交流と親  
 睦の輪が大きく大きく広がり  
 ました。名司会のもと教区毎  
 の工夫をこらしたステージ演  
 出で、「しんらん音頭」を踊つ  
 たり懇親会場は盛会でした。



二日目は、「おあさじ」で  
 正信偈の調声は、昨年9月に

中央教修を終了した門徒推進  
 員さんが自発的にお勤めをし  
 ていただき、素晴らしい調声  
 に感心いたしました。

「話し合い法座報告」と「全  
 体協議会」では、時間の経つ  
 のも忘れるほど、また時間が  
 もう少しほしかったと感じる  
 貴重な時間でした。

竹田嘉円先生の「まとめの  
 ご法話」では、「皆で本物に  
 なるうヨ。そうでないと何も  
 実を結べない。美味しいもの  
 を食べると顔が緩むんですヨ。  
 顔が緩むと心が緩むんですヨ。  
 その時にどんな話が出るかが  
 問題なのです。」

「お念仏を申しながら阿弥  
 陀さまのご本願のはたらきに  
 出遇っていくと、本当に目を  
 さましながら生きていない自  
 らの愚かさに気づかされます。  
 だからこそお寺のご法座にお  
 参りをして、何度も阿弥陀さ  
 まのご本願のおこころを聞か  
 せていただくことが大切なの  
 です。また、お仏壇に手を合  
 わせ、お念仏を申しながら生  
 きていくことが大切なのです。」

私たちは、仏縁でお念仏を  
 いただき往生浄土の道を歩ま  
 せていただいているのです。

閉会式では、次期開催教区  
 の宮崎教区へバトンをお渡し  
 することが出来ました。二日  
 間の実践運動研修会も終了し、  
 大分教区の実行委員20名が整  
 列をして参加者をお見送りす  
 ると、参加者より多くの感謝  
 の言葉をいただき、感動と充  
 実感で目頭が熱くなりました。  
 門徒推進員としての自覚と実  
 行委員の目標に向かっての団  
 結力を改めて感じました。

この度の「実践運動研修会」  
 を機縁として、門徒推進員の  
 皆様お一人おひとりが、自覚  
 をもって、「実践運動」を展  
 開することにより、各寺院を  
 始め浄土真宗本願寺派のご法  
 義が益々繁盛しますよう念じ  
 ます。





懇親会

◆参加者の声◆

第5連区門徒推進員実践運動研修会が今年6月24日、大分担当で別府湾ロイヤルホテルで実施され、私は毎年九州各県会場に出席しました。

今年も地元大分で有りますので、我が身の不良顧みず歓迎の気持ちで出席しました。

遠隔の地、鹿児島、熊本、長崎、佐賀、福岡、宮崎、大分の参加者180人の出席者があり、沙々木教務所長、推進員代表田川さん、事務局黒田先生、役員の皆様御苦勞様でした、感謝します。

講師には安芸教区竹田先生をお迎えし法話、話し合い法座で各寺院のきびしい現状の中活発な意見がありました。

懇親会場でご馳走とお酒が有って、県外のお国自慢で人と人との交流ができて大盛会でありました。私の事ですが、昭和52年京都本願寺で決意表明をお声で決意し地元に戻った寺のお手伝いを喜んでします。あれから十年、二十年たつ間、寺役職非才もかえりみず組や教区の役職まで皆様に支えられつとめ今年4月に任職継職法要梵鐘鐘桜完成し、お稚児さん45名参加して祝賀ができました。最高の慶びです。事業するにも誠意を持ってすれば必ず成功すると思えます。今後推進員も実践運動を推進したいと思えます。今日の法話の中で無宗教者は外国では通用しない、人間は健康の中に頑張つて聴聞して他の人にも伝道する事が大切です。

大分教区前総代会会長

河野 法一

「御同朋の社会をめざす運動」

(実践運動)

本年一月十六日、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要ご満座にあたりご門主より、「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息」が発表されました。その中でご門主は、「凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも『世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ』と、精一杯努力させていただきますよ。阿弥陀如来はいつでも、どこでも、照らし、よびつづけ、包んでいてくださいます。」と述べられ、さらに「本願念仏のご法義は、時代が変わり、社会が変わっても、変わることはありませぬ。しかし、そ

きることでできる社会を目指す」ことこそが、これからの宗門に課せられた課題である、と述べられ、本年四月一日から宗門の体制が改められたのも「時代に即応する営みの一つ」と示されました。



改められたのと同じく本年四月一日から、これまでの基幹運動の成果を踏まえ、あらゆる人々が自他共に心豊かに生きることでできる社会の実現に貢献する活動を、「御同朋

の社会をめざす運動(実践運動)」として推進していくことになりました。七月に入りようやく「重点プロジェクト基本計画」が示され、実践運動の具体的な方策が見えてきました。(詳細は紙面の都合で掲載できませんので、『宗報』等で)そこで、七月二十五日に教区実践運動常任委員会を開催し、教区として、この実践運動をどう展開していくかを協議いたしました。



協議の場では、実践運動の、推進していく体制の脆さ、重点プロジェクトの期間が三年間で委員会任期が2年間であること、差別、非戦に対するリストがないこと、本当に教区・地方の現場を知っているのかなどなど、実践運動に対する批判が続出しました。しかし、批判ばかりしていても先には進まないのです、先ず、「宗門の課題リスト」の中か

ら、七月の豪雨災害と東日本大震災の支援活動から「災害支援」と、大分教区の現場・地域の問題・課題に取り組むべく「日常の寺院活動」を選

択し、重点プロジェクトの実践目標を定めます。実践目標を定めるには、教区として基幹運動の総括が十分であった

のか、の点検から始めます。そのため、今年度は、その総括を踏まえて実践運動を精査する移行期間になります。もちろん、教区だけではなく、組においても、基幹運動の総括をお願いいたします。

「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」は、「基幹運動」のように推進者(相談員制)を設けていません。その願いは、運動に関わる者だけの運動ではなく、宗門に関わる全ての一人、一人一人が取り組み推進していく運動であるべきということでしょう。先に述べた、体制の脆さはここにあるのですが、私たち一人一人の運動となるよう、私たち一人一人が主体的に取り組む運

動となるように点検・総括を繰り返しながら、言葉だけではなく、ともに「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」を推進していきましょう。

### 京女の宗育が大分へ

夏休みを利用して子ども会行事を行う教区内の寺院は多

く、例年ならば教区少年連盟が人形劇の舞台を携えて訪問し、依頼のあった二十ヶ寺ほどのお寺の子ども会をゲームや人形劇で盛り上げている。

今年の夏は七月後半と八月前半は例年通りであったが、八月後半は例年とは違う夏になった。数年前、龍谷大学の伝道部が大分に来たことはあったが、今回は京都女子大学の宗



教教育部が、初めて大分教区を巡回したのである。四名の部員が、八月十七日から二十七日までの十日間で十一寺院を訪れ、子どもたちの夏の思い出作りに一役買ってくれた。写真は、最初の会所となった大海組流芳寺の子ども会の一コマである。



### 平成24年度

### 大分教区布教団研修旅行

大分教区布教団  
副団長 原田 恵道

期 日 平成24年7月3日

4日 一泊二日

目的地 四州教区塩屋別院&

妙好人・讃岐の庄松

同行を訪ねて

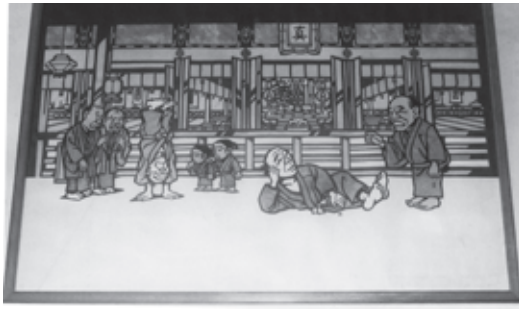
参加者 14名



井戸跡 (正宗寺)

前夜より大雨警報が出て別府まで行くのに苦労したが、出航直前に14名全員揃い大雨の中を宇和島運輸のフェリーで四国の八幡浜を目指して不安を抱きながら3時間近くの船旅を弁当を食べながら過ごした。船中で雨も弱まり予定通り八幡浜に上陸したときは雨もあがっていた。大洲ICから松山自動車道に乗り一路塩屋別院をめざした旅のはじまり、行程が進むにつれて天気も回復し右に四国の山並み、左に瀬戸の海を眺めながらの快適なバスの旅だった。ベテラン運転手にガイドさん、退

屈することなくバスは高松自動車道へと進んで行く。善通寺ICで高速を下り、いよいよ香川県丸亀市に位置する四州教区教務所でもある塩屋別院を訪ねる。ご輪番・職員の歓待を受け別院の歴史や周辺の説明を聞く中に旅行団一同にとっても興味をひくことがあった。その話を聞いてこのたびの研修のコースには入っていないが是非との意見で以前は浄土宗の寺院であったが、いまでは浄土真宗本願寺派慧日山(権堀) 正宗寺を訪ねた。その寺は法然房源空上人が法難に遭い遠流の配所となった草庵の跡地であった。「流刑を恨みとはしていません。辺鄙に赴き田夫野人に念仏を勧めるのは私の永い間の念願でした」と「念仏往生」のみ教えを説かれたのです。渚で小石を拾い六字名号を刻みご本尊とし、またこの近辺には真水が乏しかったために上人自ら權で井戸を掘り信徒に分け与えていたそうで、今も「六字名号も權も井戸も」



庄松さんの絵

大切に保存されてきました。一同はみな、越後の親鸞聖人に想いを馳せるのでした。その夜は丸亀ブラザホテルに投宿、懐風亭にて九州北部豪雨を気にかけてながら旅の酒に疲れを癒す。

二日目はいよいよ「讃岐の庄松さん」に逢える。日本でも有数の石垣を誇る丸亀城を右に左に見ながら香川県東かがわ市の真宗興正派勝覚寺を訪ねる。本堂一面に庄松さんに関する絵や言葉・肖像画が掲げられいかに慕われていたかが想像された。その言葉の一部を紹介しよう。

- ◎ 南無阿弥陀仏 よりほかなにもない
- ◎ 親のうちじゃ 遠慮にはおよばぬ 及ばぬ そういう おまへは義子(まねこ)であろう
- ◎ 石の下には 居らぬぞ 居らぬぞ
- ◎ 兄貴 覚悟は よいか
- ◎ 「信心はいかんすれば得られるぞ」と問うに、庄松さん答えて曰く「聖人一流の御文亦是末代無智の御文を百辺読むべし、しからは信心は得られるであろう」
- いちいちのことばの解説はこの際省くとして、庄松さんの信心の深さ人間性に魅せられた訪問であった。庄松さんは明治4年3月4日に73歳で亡くなり、後に正覚寺の小抄(せうしょう)の説教所に、興正寺法主からいただいた法名「正真」を刻んだ墓碑が建てられている。われわれはそこにお参りし今回の研修の終わりとした。帰りは金毘羅で昼食をとりひたすら帰路を急いだ。四国の三崎から佐賀関にわたり二日間の旅は終わった。

九州北部豪雨で被害に遭われた寺院・門信徒の方々に心からお見舞い申しあげます。



本願寺塩屋別院参拝

### およろこび記事

【法要】

4月29日

岡 組 西蓮寺

住職継職奉告法要

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

梵鐘・鐘楼落慶法要

「正信念仏偈作法」

講師

大原瑞雲師(本願寺派布教使)

※稚児行列(四六名)

岡 組 安楽寺

5月5日

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

本堂大修復落慶法要

「正信念仏偈作法」

※稚児行列(七〇名)

【住職就任】

新田 元貴

日田組 照蓮寺

(平24・5・15就任)

島井 優治

宇佐組 永楽寺

(平24・6・5就任)

### おくやみ

次の方々がご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○岩崎 彰(平23・1・7)

岡 組 西念寺 住職

○石木 ミツ(平24・5・4)

速見組 常照寺 前坊守

○東陽 円瑞(平24・5・9)

宇佐組 西光寺 住職

○阿部 ミチ(平24・5・21)

国東中組 教證寺 坊守

○大原 真秀(平24・5・23)

大野組 最乗寺 前住職

### 編集後記

今年の夏も蒸し暑い日々が続きました。節電が叫ばれる中、後ろめたい気持ちで冷房をかける日々でした。七月には県内各地で大雨災害が発生し、犠牲者も出てしまう事態に。教区内でも被災寺院が出ています。復旧や復興にはまだ時間がかかりそうです。

そんな中、筆者の住む地域ではJRの運転が再開されました。犬を連れ、線路沿いの道を歩いていたら、赤い車体の初列車が「いつものように」走り抜けて行きました。

普段列車は利用しないものの、当り前の有り難さに気がかされる朝でした。

訂正とお詫び

真宗大分第134号第4面  
教区会議員名簿

№25 下毛郡↓下毛中の

誤りでした。  
訂正してお詫び申し上げます。